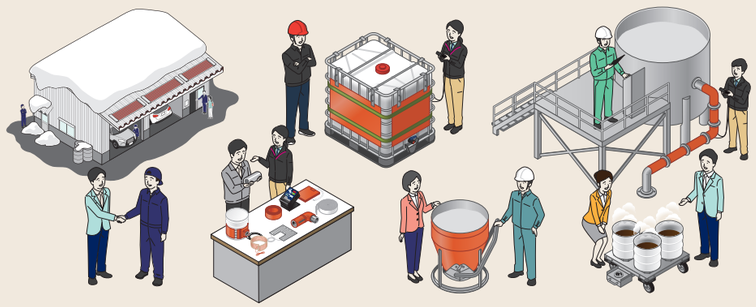
THREE HIGH ANNUAL REPORT

OMOU

2024



THREE HIGH
CO.,LTD. SINCE 1990

株式会社スリーハイ
THREE HIGH CO.,LTD.

所在地：〒224-0023 神奈川県横浜市都筑区東山田 4-42-16
TEL　：045-590-5561
FAX　：045-590-5571
MAIL　：pr@threehigh.co.jp

BSテレ東「グロースの翼」で
紹介されました!

OMOU 2024
ウェブ版はこちら

2025年4月発行
発行者: 株式会社スリーハイ
企画・制作協力:今尾江美子（ケイスリー株式会社）・臼井亮介（合同会社KESHIN）

INDEX

代表あいさつ P.1

会社紹介 P.2

社名の由来 P.4

2024年活動ハイライト P.5

スリーハイの「ステークホルダー経営」 P.6

— パートナー企業を、どこまでも想う P.8

— 地域を、どこまでも想う P.12

— 働く仲間を、どこまでも想う P.16

— 未来を、地球を、どこまでも想う P.20

SDGs達成貢献に向けた取り組み P.24

価値創造プロセス P.26

会社情報 P.28

財務情報（貸借対照表） P.30

表彰、認証・認定 P.32

リスクマネジメント P.32

第三者コメント P.33

※本レポートは、原則として2024年1月～2024年12月のデータを基に作成しています。

地域と、世界を、どこまでも「温める」。

スリーハイのアニュアルレポート「OMOU 2024」をお届けいたします。
本レポートは、サステナビリティレポート「Sustainability Report 2021」から数えて4冊目の発行となります。これまで「OMOU」を手に取ってくださったパートナー企業の皆さま、従業員、地域の皆さま、そして未来を担う学生の皆さまに、心より感謝申し上げます。

2024年9月期（第35期）の経営状況は、前期に引き続き顧客のエネルギー効率を高めるソリューション販売が好調で、売上高が過去最高となりました。

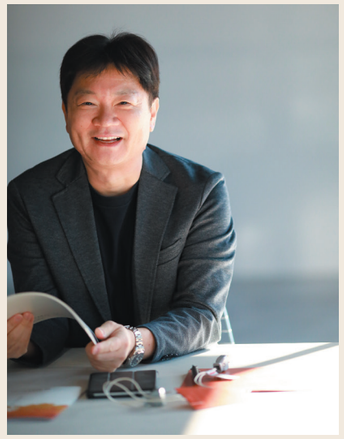
当社はヒーターだけでなく、断熱カバー、温度センサー、温度制御システムなど「熱」に関わる幅広い製品・サービスを提供しています。用途は加熱、保温、融雪、凍結防止、結露防止など多岐にわたり、これまで対応してきた約7,000社のお客さまとの経験を活かし、課題解決に貢献してきました。2024年には、顧客ニーズから生まれた新製品「IBCヒーター」を販売開始。全国・世界のどこにでも「お客さまのもとに迅速に駆けつける」という当社の強みを生かし、引き続き迅速かつ的確な対応を心がけてまいります。

また、2024年2月には創業以来初となる横浜以外の営業所である札幌営業所を開設し、北海道および東北エリアでの営業体制を強化しました。今後、この地域では全社売上高の20%を占めることを目標としています。さらに、海外展示会への積極的な参加を通じて、ベトナム、モンゴル、カンボジア、台湾などから多くのお客さまが来社し、国際的なビジネスチャンスが広がった一年となりました。

経営体制強化の一環としては、2024年2月に「株式会社スリーハイホールディングス」を設立し、持株会社体制に移行しました。この体制変更により、多角化、海外展開、他社との連携、事業承継など、「ものづくり」を未来に残すための柔軟な経営が可能になりました。また、事業継続計画（BCP）においては、仕入先企業との協力体制の強化を進めています。財務面では、実質無借金経営を実現し、財務基盤のさらなる安定化を図りました。

脱炭素経営にも注力しています。昨年は、全工場の電力を再生可能エネルギーに切り替え、CO_2排出量ゼロの目標を達成しました。今後はScope3の測定に向けた体制を整備し、サプライチェーン全体での環境負荷軽減を目指します。

今後の課題としては、全国および海外に広がる顧客ニーズに対して、人員不足により十分に対応しきれていない現状があります。この人手不足を解決するため、営業体制の強化を図るとともに、AIを活用した事務業務のDX化を進めています。また、当社の認知度拡大に向けた広報PR活動も継続して強化してまいります。



当社は今後、毎年6%程度の売上成長を目指し、5年後には売上高6億円超を達成する計画を策定しています。「熱」に関わるグローバルニッチトップ企業として、地域と世界をどこまでも「温める」ことで、持続可能な社会の実現に向けて歩み続けます。

これからのスリーハイに、ぜひご期待ください。

株式会社スリーハイ
代表取締役 男澤誠

経営理念（ミッション）

ものを想う。ひとを想う。

ものに魂を宿し、関わる人たちに想いを届けていく。
それが、私たちのミッションです。

ビジョン

世界中の「温めたい」に応えていく。

「熱の困りごと」を解決すること。
創業以来、一つ一つの「困りごと」を全力で解決し、お客さまが笑顔になる瞬間を、たくさん見てきました。
「熱の困りごと」は、世界中にある。その一つ一つを全力で解決し、世界中に笑顔を増やしたい。
それが、私たちのビジョンです。

バリュー

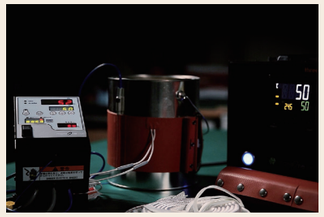
「温める」をつくること。

「ものづくり」を通じて、私たちと関係するすべての人たちを、どこまでも、温めていくこと。
取引先、地域、従業員、その家族。そこにつながる、たくさんの人たち。
みんなの心が温まる体験を、この手で、生み出していくこと。
それが、私たちのバリューです。

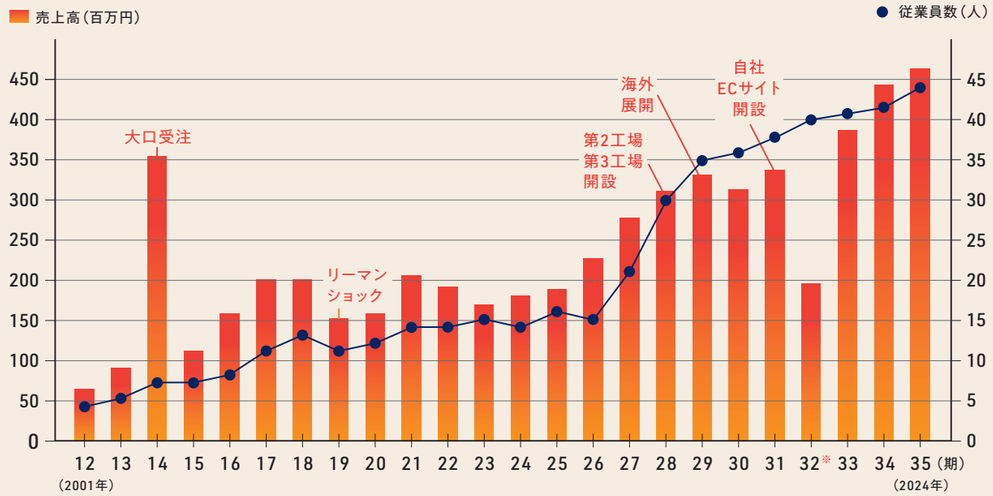
事業分野

社会のインフラを支える、ヒーターソリューションカンパニー

1990年の設立以来、産業用電気ヒーターの製造・販売を中心に事業を展開してきました。ヒーターと一言で言っても、シリコンラバーヒーター、ベルトヒーター、マントルヒーターなどさまざまです。お客さまの目的や用途に応じた最適なソリューションをご提案・ご提供しています。私たちは、製品を通して、お客さまの心を温める製品やサービスを提供したいと考えています。



売上高と従業員数の推移



※2021年に決算期を2月から9月に変更しました。このため32期は7カ月のみで算出しています。

Thee High（スリーハイ）という名前は、
High Technology、High Touch、High Fashion、
という3つのHighが由来です。

もの、ひと、社会。

どれが欠けても、当社は成り立ちません。
創業時に打ち立てた、この三本柱を時代に合わせて進化させながら、
これからも守り続けていきます。

HIGH TECH
more
GLOBAL

世界に通用する
日本ならではの
高い品質と技術力

HIGH TOUCH
more
HUMAN

もの・ひとを
温めることができる
人間味溢れるスタッフ

HIGH FASHION
more
SOCIETY

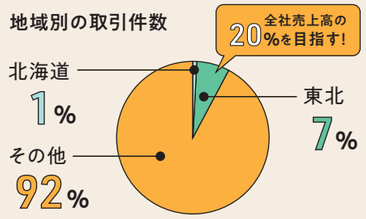
枠にとらわれない
新しい製造業をつくり
地域・社会を豊かに

その1

札幌営業所を開設

2月に札幌営業所を開設しました。創業初の、横浜市外での営業所となります。
私たちの仕事は、お客さまの「熱の困りごと」を解決すること。北海道には、北国ならではの困りごとを抱えるお客さまがたくさんいます。さらに現在、千歳市では次世代半導体の製造拠点整備が進められています。半導体業界は、私たちの製品が活用されている主要な業界の一つ。今後ますます私たちの技術が必要とされる場面が増えてくると考えられます。

地域別の取引件数



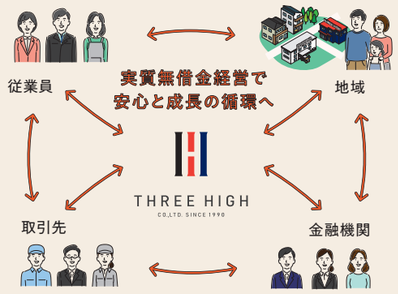
私たちは、ご相談を受けたら何より「現場に急行する」ことを大切にしてきました。これからは北海道や東北で「熱の困りごと」を抱える方々にとって、誰よりも早く、誰よりも親身に応える存在でいたいと思います。

その2

今期、実質無借金経営に

今期「実質無借金」となり、財務基盤の安定化が進みました。これからも従業員や取引先、金融機関の皆さまに信頼され、安心してもらえる状態を保ちながら、将来の成長機会にも備えていきたいと考えています。

実質無借金とは
借入れはあるものの、それを上回る資金を保有しており、いつでも返済可能である状態



その3

持株会社体制へ移行

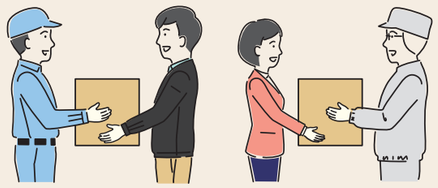
2月、株式会社スリーハイは、新たに持株会社として株式会社スリーハイホールディングスを設立し、持株会社体制に移行しました。
予測困難な時代にあっても、「ものづくり」を未来に残すため、多角化や海外展開、他社との連携、事業継承など、さまざまな手段を取りやすくするための選択です。
株式会社スリーハイは、株式会社スリーハイホールディングスの100%子会社となります。ビジョンや業務内容は従来のまま、新体制の下で、これまで以上に事業経営に専念し、価値を高める挑戦を続けていきます。

THREE HIGH
HOLDINGS

ステークホルダーを どこまでも温める。
その想いは、巡り巡って やがてみんなを温める。

私たちの事業は、あらゆるステークホルダーとの関係で成り立っています。
ステークホルダーと共に、良い事業をつくりたい。良い社会をつくりたい。
だからまず、ステークホルダーを温める。その想いは、地域に、社会に広がって、
やがて大きな木となり、みんなを温めるはずだから。

パートナー企業

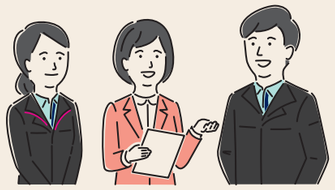


パートナー企業を、どこまでも想う

仕入れ先の想いを受け取り、お客さまへ渡していくこと、一つのヒーターには、たくさんの企業が関わっています。私たちの役割は、パートナー企業の想いをつなぐ架け橋になることだと考えています。

→ P.8-P.11

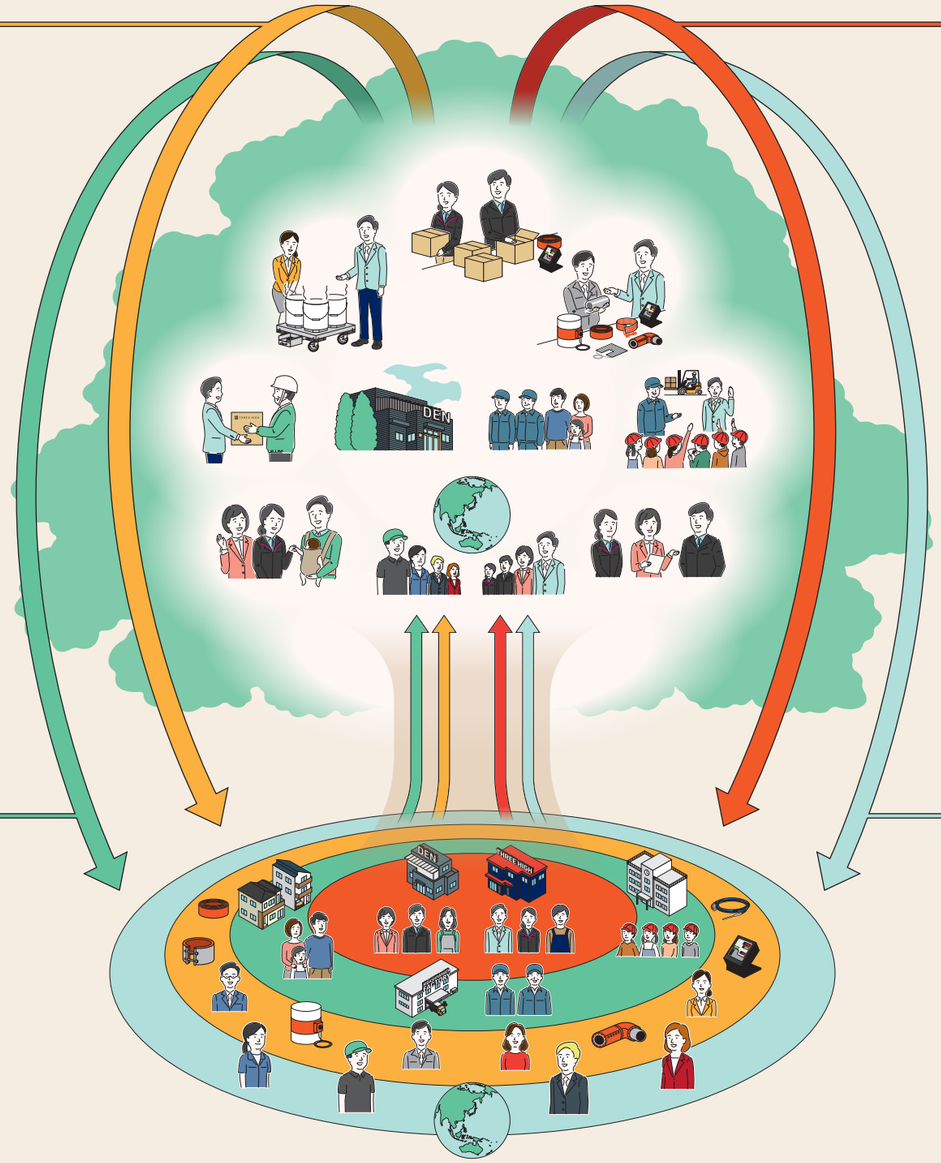
従業員



働く仲間を、どこまでも想う

働く仲間は、最も身近なステークホルダー。スリーハイは、みんなにとっての居場所となり、安心して力を発揮できる場でありたい。お互いを想い、周りを想う。そんな仲間が集い、成長しつづける場でありたいと考えています。

→ P.16-P.19



地域

地域を、どこまでも想う

「住宅街にある町工場」である私たちは、地域で暮らす人々との信頼関係がなければ、この場所で事業を続けることができません。2013年から、さまざまな活動を通じて、地域との温かい関係を築いています。

→ P.12-P.15

未来 地球

未来を、地球を、どこまでも想う

私たちは「ものづくり」の会社です。大半はオーダーメードで、1個から手作りをしています。そんな「ものづくり」の温かさを、世界に未来に伝えたい。そう願いながら、今日も目の前の「もの」に向き合っています。

→ P.20-P.23

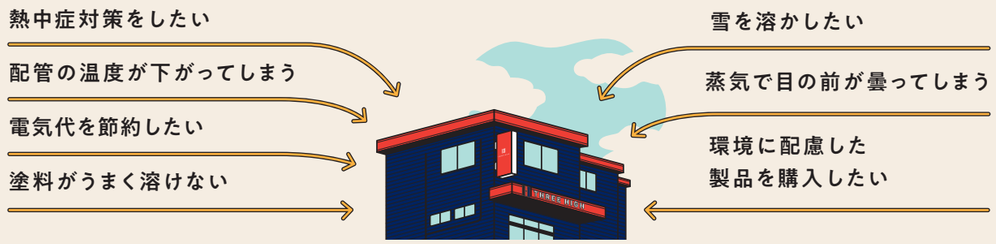
ヒーターづくりに関わる、皆さまの想いをつなげていく。

パートナー企業の皆さまとともに、世界中の「熱の困りごと」を解決したい。

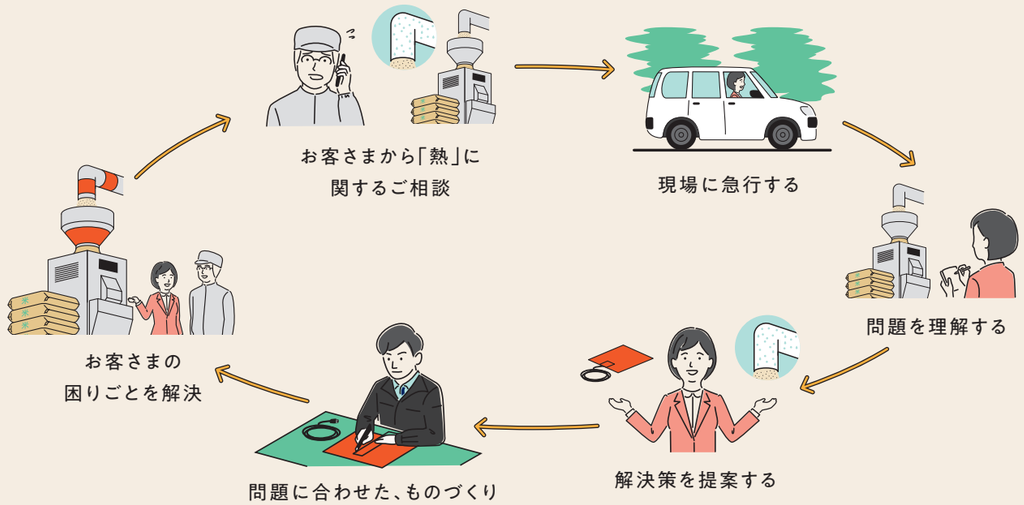
私たちは、熱で困っているお客さまの元に、まず駆けつけ、ともに解決策を考えます。
お客さまの困りごとに、誰よりも早く、誰よりも親身になって応えたい。そして、お客さまの心を温めたい。
「熱で困ったら、スリーハイ」。私たちは、そんな存在になりたいと願っています。

私たちに寄せられる「熱」の困りごと

私たちの元には、さまざまなモノづくりの現場からご相談が寄せられます。中には、ヒーターが解決策になると知らずにご相談される場合も。よくあるご相談の一部をご紹介します。



お客さまを「温める」流れ



お客さまからの声

今までは、溶接前にガスバーナーを使って金型を予熱していましたが、提案してもらったヒーターに替えたことで人手も掛からず、かつ予熱時間が短くなり、作業効率が飛躍的に上がりました。

建設業 Aさん

長年悩まされていたステンレス容器の内側と外側の温度差による結露をヒーターで解決できるとは思ってもいなかったので、大変驚きました。効果も抜群です。

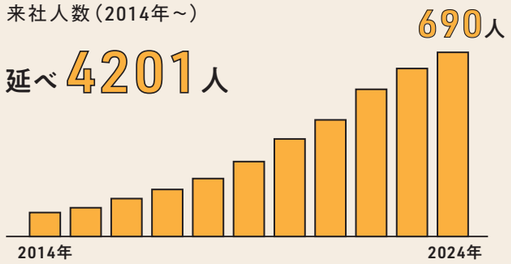
薬品メーカー Bさん

お客さまを想う。その先に生まれる価値を想う。

まずは、お客さまとの接点をコツコツと増やしていきます。

来社人数（2014年～）

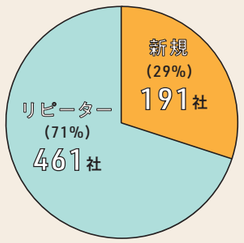
延べ 4201人



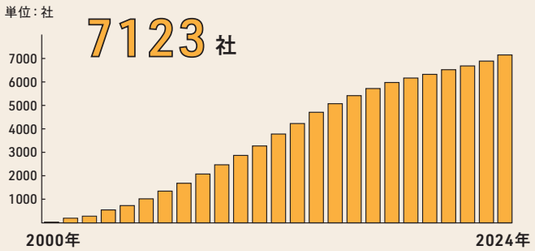
お客さまから相談を受け、解決できる存在になっていきます。

2024年の販売先数

合計 652社



販売先数の累計（2000年～）



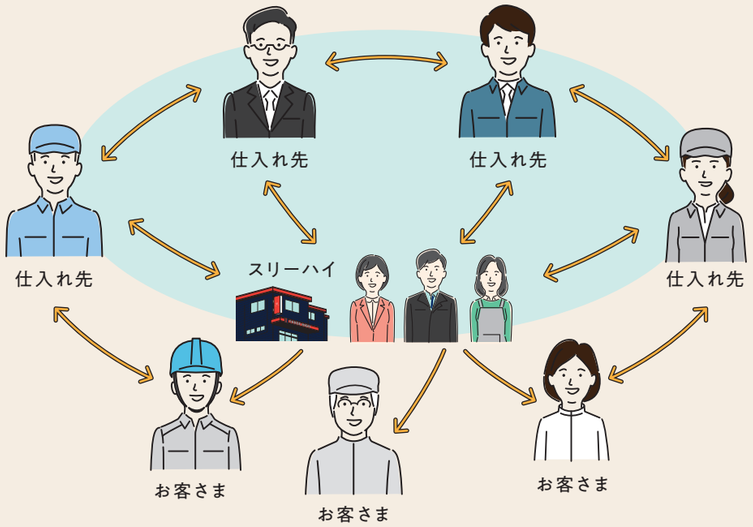
「熱の困りごと」を解決し、さまざまな価値を生み出していきます。

ヒーターを用いた解決策の提案、販売

直接的に生まれる価値	非効率な温め方が不要になる	物が固まりにくくなる	最適な温度を保てる	凍結を防止できる
その先に生まれる価値	生産効率の向上	作業負担の軽減	品質の保持	安全性の保持

仕入れ先は、ともにお客さまを想い、困りごとを解決する大切なパートナー。

仕入れ先は、お客さまに最高の提案・製品を届けるための大切なパートナーです。スリーハイは、これからもより一層、仕入れ先の皆さまとの関係づくりを大切にしていきます。



仕入先との対話を増やし、協力体制を築いていきます。

2023年より仕入先との協力関係強化に向けて積極的に取り組んでいる仕入先訪問。年に一度の交流が、仕入先との良い関係づくりにつながっています。2024年は「OMOU2023」をきっかけにお声がけいただいた商社を含めた6社を訪問し、取り組みや工夫を学びあい、相互に理解し合う機会をいただきました。これからも仕入先と顔の見える温かい関係をつくり、よりよい製品をお客さまに共に届ける体制を整えていきます。

主要な仕入れ先への アンケート 10社

↓

アンケートに基づく訪問 6社

↓

QCD（品質・コスト・納期）管理強化 ＋ コミュニケーション強化

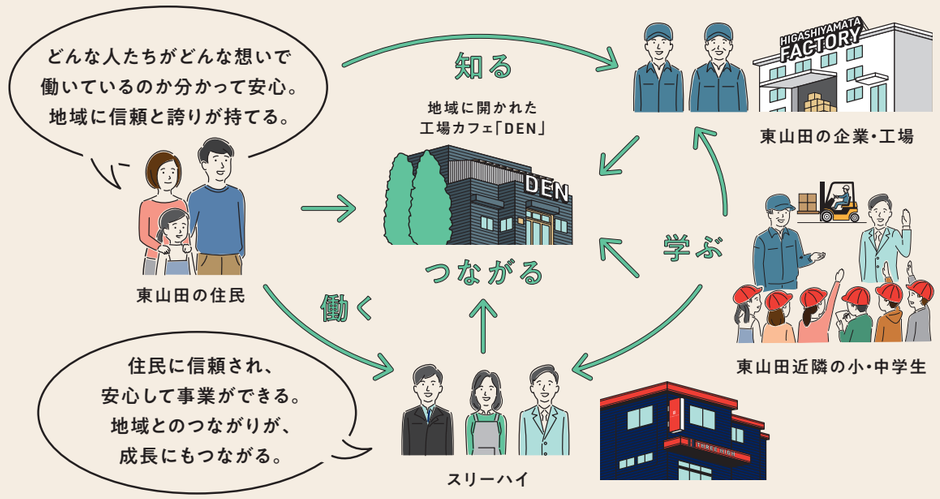
地域に温かさを循環させたい。
それは巡り巡って、
自分たちに戻ってくるものだから。

地域とともに生きる町工場

私たちは、横浜市都筑区東山田の準工業地域にある、小さな町工場です。この地域には、70ほどの工場が集まっています。以前はもっと多かったのですが、廃業や移転などで徐々に減少。工場があった土地には新しい家やマンションが建ち、ここに移り住む人が増えました。
いつしか私たちは「住宅街にある町工場」に。そこでは地域との信頼関係がなければ事業を続けていくことは困難です。だから私たちは「地域とともに生きる」ということに真剣に向き合い、取り組んできました。

準工業地域の一般的な姿

スリーハイが目指す姿



いろいろな接点を持ち、地域の中で共存共栄する

2013年からは毎年、近隣小学校の生徒たちが地域の町工場を訪ね歩く「こどもまち探検」を開催しています。
地域で暮らす人たちが、スリーハイを「働く場」として選んでくれるようにもなりました。
2017年には、地域に開かれた工場カフェ「DEN」をオープン。地域の多様な人や組織をつなぐ拠点としての役割を担いつつあります。
住民からの信頼を得るために続けてきた地道な活動は、いまやスリーハイの大きな資産となっています。
地域に生かされている会社として、温かさが巡り続ける地域の一員であり、起点でありたいと願っています。

スリーハイは、地域をつなぐ役割から、地域の挑戦を応援する役割へと変わりつつあります。

こどもまち探検

地域の子どもたちに、ものづくりの魅力を知ってほしい。この地域で働く大人たちの姿を知ってほしい。そして、自分たちの夢を広げてほしい。そんな想いで、2013年から毎年、東山田地区の小学生を招いて地域の工場を巡る「こどもまち探検」を実施しています。

参加した子どもの数

2024年
60人
2013年以降
延べ **1913人**

実施回数

2024年
1回
延べ
23回

参加している工場の数

2024年
20社
（うち2社を訪問）
2013年開始時 **1社**

成果

地域への愛着やものづくりへの関心が高まる

成果

お互いに顔が見える関係、信頼関係が築かれる

成果

自分たちの仕事への誇りやる気が高まる

働く人と暮らす人の間に、温かさが循環する地域に

DENのこれから

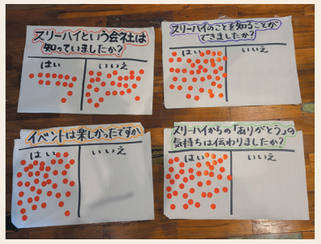
オープンから7年が経ちました。DENはスリーハイの工場カフェでありながら、ステークホルダーの皆さまにも広くご利用いただいています。特に最近は、地域の方々から「DEN」という名前を耳にする機会が増えました。これからも東山田のランドマークとして、皆さまと共に成長していければと思います。

工場カフェ「DEN」

2017年、地域に開かれた工場として「DEN」をオープン。自社の工場の一つであると同時に、お客さまや地域の人たちにとって、ものづくりを間近に見られる場、交流する拠点にもなっています。

2024年の主な活動

神奈川大学の学生とイベント開催



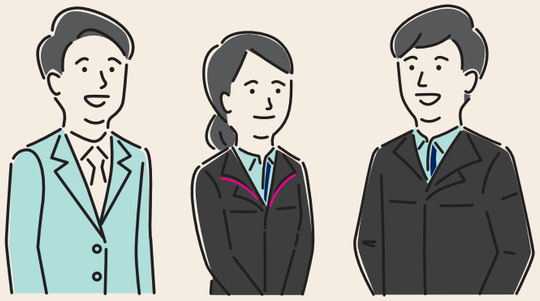
2024年は、スリーハイが東山田を拠点に活動を始めて20周年を迎える記念の年となりました。この節目に地域の皆さまとさらに交流を深め、より良い地域づくりを目指すため、2024年10月に神奈川大学経営学部の学生と協力し、地域住民向けのハロウィンイベントを開催しました。イベントでは、廃材を活用した「さかなつりゲーム」や、当社のヒーターを使った「チョコパフェづくり」など、当社ならではのアクティビティを用意しました。当日は、71名もの親子連れが参加し、大いににぎわいました。地域の皆さまと学生たちの笑顔があふれる楽しいひとときとなりました。

東山田食堂&シェアごはん

活動開始から2年目を迎えた「東山田食堂&シェアごはん」は、地域サポーターのご協力により認知度が上がり、多くのリピーターに支えられています。物価高の中でも活動を継続できているのは、規格外や廃棄予定だった野菜や食品を提供してくださる地元農家や食品メーカーの皆さまの温かい支援のおかげです。今年は新たな取り組みとして、横浜市立小中学校の支援学級3校から職業体験を受け入れ、生徒たちにカフェ運営のお手伝いをしてもらいました。この交流を通じて、地域のつながりをさらに深めることができました。

スリーハイは、一人ひとりの活躍を支える職場でありたい。

パートナー企業を想うこと、地域を想うこと、関わるすべての人たちを想うこと。そのためには、まず自分たちが想い合う組織であること。一人ひとりが相手の立場で物事を考え、自分の立場で力を発揮する。そうして、組織として成長していく。スリーハイは、そんな職場でありたいと考えています。



全従業員数

スリーハイの従業員は、14年で約11倍に。パート・アルバイト・嘱託・派遣の採用も増え、多様な力がものづくりを支えています。

2000年 4人 ➡ 2010年 13人 ➡ 2024年 44人

社員:18人　パート・アルバイト・嘱託・派遣:26人

年齢構成（全社員18人）

スリーハイでは多くの若手が活躍。ものづくりの未来を支える人材を育てています。

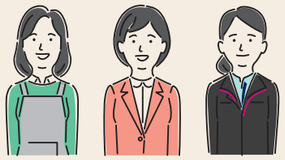
20代 5人　30代 6人

40代 4人　50代 3人

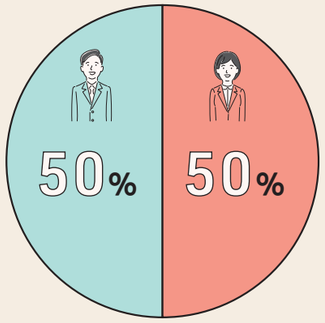
※データはすべて2024年12月末時点。

男女比

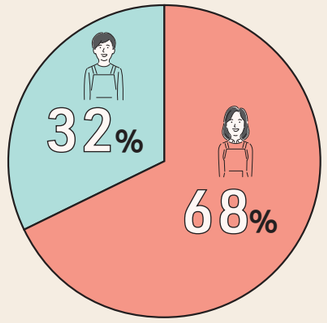
工場の一般的なイメージと異なり、女性も多く活躍しています。そのうち3人がリーダーを務めています。



男女比（全社員）



男女比（全従業員）



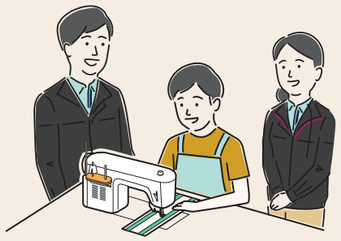
社風

気になったことはどんなに些細なことでもお互いに確認し合えるような雰囲気で、互いに成長し合えていることを、日々肌で感じます。多様な人材が集まる職場だからこそ個人の意見や考え方を個性と捉え、売り上げや成績だけではなく、仕事の過程や目標達成に向けたアドバイスを個人毎に上長からもらえるのでモチベーションにつながります。

（IT業界から転職したので）スリーハイの社風はとても温かみを感じています。「やってみよう」と誰かが言い出せば、みんなが進んで役割を持ち、自主的に進めていく前向きさがあります。役職や職種の垣根なく協力し合う、風通しのよい社風だと思います。

障がい者 “challenged”

2017年から障がいを持つ方を仲間に迎え、2024年末現在、2人が活躍しています。決して補佐的な業務ではなく、「ミシンが得意」「細かな作業が得意」といった各人の強みを生かして、ものづくりの一翼を担う大事な戦力として活躍しています。



働く仲間 “人財”

スリーハイでは、新しい風や多様な価値観を社内に取り入れることで、これまでの固定観念にとらわれない新しいアイデアが生まれる職場づくりを目指しています。その一環として、中高生を対象とした職業講話や、大学生の短期・長期インターンシップの受け入れを積極的に行っています。2024 年には、オランダや台湾からの留学生に加え、日本の学生も受け入れ、多様な視点や柔軟な発想がスリーハイの活動をさらに活性化してくれました。

スリーハイでは、4つの側面から組織づくりに取り組んでいます。

働きやすい環境をつくるための取り組み

全従業員の残業時間抑制に向けた施策

業務効率化とワークライフバランスの向上を目指し、2022年に「原則全従業員19時退社」ルールを導入しました。このルールは社内に定着し、チームで協力して効率よく業務を進める体制が整いました。
2024年には、さらに30分早めた「原則全従業員18時半退社」に挑戦し、従業員の生活と仕事の調和をさらに図る取り組みを進めています。

残業時間の削減と売り上げUPで相乗効果

2024年は「原則全員18時半退社」による効果 → 成果 残業時間 前期比 **26.2%** 削減

心身の健康を守るための取り組み

「健康経営優良法人 2024(中小企業法人部門)」に認定されました

スリーハイは、2022年から3年連続で「健康経営優良法人」に認定されています。
従業員が健康に働ける環境づくりを目指し、2024年は新たに以下の取り組みを実施し始めました。

保健師による健康管理
健康経営支援企業のアドバイスをもとに、保健師が従業員の健康管理をサポートする体制を整えました。

就労時間内での再検査受診
健康診断で再検査が必要とされた場合、その時間を就労時間とみなし、受診しやすい環境を整えました。

これからの組織づくり

2024年度は「ステークホルダーをどこまでも温めていこう」をスリーハイのスローガンに掲げています。それを実現するために、従業員の健康づくりを応援、残業時間の削減によるワークライフバランスを維持していきます。当社のバリューである、「温める」をつくること。に一層力を注いでまいります。

チームビルディングイベント「ぬくぬくフェス」を開催しました

コロナ禍を経て、社員同士の業務外での顔をあわせたコミュニケーションは減少傾向にありました。そこで、チームワークの向上とコミュニケーションの活性化を目的に、2024年 10 月、神奈川大学の学生と共に「ぬくぬくフェス」を企画・開催しました。イベントのメイン企画は、キャンドルづくり体験。ろうを温める工程では、自社開発の底面ヒーター「GOEMON」を使用し、新型と旧型の違いに驚く声も上がりました。参加者同士で工夫を凝らしながら制作を進める中で、自然と会話が生まれ、個性豊かなキャンドルが完成しました。役職や部署の垣根を超えた交流が生まれ、和やかな雰囲気の中で、社員同士の絆がより深まる貴重な時間となりました。

コミュニケーションを円滑にするための取り組み

経営者視点が身につく「お金の勉強会」を開催しました

社員を対象に、会社のお金の流れを理解し、時間やお金を効果的に活用する方法を学ぶ勉強会を実施しました。今回の勉強会は2年ぶり、2回目の開催です。前回よりもさらに内容を充実させ、「数字に基づいて根拠のある判断を行う方法」を学ぶことに重点を置きました。
この取り組みでは、生産性の向上や自社の利益につながる判断基準を学ぶだけでなく、お客さまにより良い価値を提供するための考え方にも目を向けました。さらに、経営者視点で物事を判断するスキルを磨く機会にもなりました。

スキルアップを支援するための取り組み

「ものづくりの想い」を未来へ、世界へ。

スリーハイの製品は、大半がオーダーメイド。1 つから丁寧に手作りしています。その「ものづくり」には、物を想い、人を想う、ぬくもりが宿っています。どんなにテクノロジーが発達する未来でも、その大切さはきっと変わらない。スリーハイは「ものづくり」を担う会社として、それを未来に、世界に伝え、残していきたいと考えています。

「ものづくり」を未来へ

地域の小中学校やNPOと連携し、子どもたちに「ものづくり」の魅力を伝え続ける活動をしています。

2024年の主な活動

こどもまち探検

6月　横浜市立山田小学校

職業体験

7月 磯子工業高校
10月 横浜市中川西中学校
11月 横浜市荏田南中学校
11月 横浜市立茅ケ崎中学校

高校生が提案した経営改善アイデアを実用化

2023年11月から2024年8月にかけて、神奈川県立綾瀬高等学校第46期生（3年生・323名）の「総合的な探究の時間」※に事例企業として協力しました。その中で、生徒たちから挙げられた55件の経営改善提案のうち、一部を実際に事業活動に取り入れました。

※「総合的な探究の時間」とは、2022年度から全国の高等学校で導入された、教科や科目の枠を超えて横断的かつ総合的に学ぶ学習プログラムです。

実現したアイデア

① 既存の取引先向けに配布する営業誌の作成

② オリジナルキャラクターの誕生

③ 廃材を活用した防災枕の開発

今後、営業誌（①）は「ぬくもり通信」というタイトルで、季刊誌として長期的に続ける予定です。また、防災枕（③）は2025年1月に開催される安全・防犯・災害対策がテーマの展示会で展示します。この展示では、普段は触れる機会の少ないスリーハイの産業用電熱製品を親子で体験していただき、防災について考えるきっかけづくりを目指します。これからも学校との連携を深めることで、高校生の柔軟な発想を事業活動に活かし、新たな可能性を広げていきます。

日本の「ものづくり」を世界へ

2024年は、オーダーメイドで、1個から手づくりする当社の「ものづくり」の温かさが、海外でも理解いただけることを実感した1年でした。今年は6月にタイ・バンコクで行われた「Manufacturing Expo 2024」、10月に台湾で行われた「Taiwan Innotech Expo (TIE) 2024」と2つの現地展示会に出展しました。「省エネ」や「燃費の良さ」に対する感度の高さは、万国共通です。その他、室内外の温度差による「結露」対策や、暑い環境下で働く人の安全を守る「遮熱」のご相談など、さまざまなお困りごとに一つひとつ親身な対応を心掛けました。

3年以上の有益な情報発信を続けたことで、熱にお困りの方の目にとまり、日系企業だけでなく、現地企業からの直接の問い合わせが増えています。現在はその一つひとつの声をもとに、より現地のニーズに合った製品の開発・提供に力を入れています。また、製品の水平展開を進めることで、より多くの企業様のお悩みをサポートできる体制を整えています。

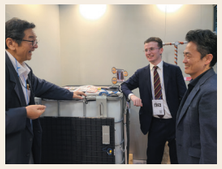
今後はさらなる情報発信の充実とサービスの利便性の向上を図り、日本のものづくりの温かさを世界に届けていきたいと考えています。

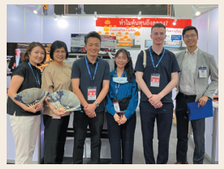
輸出国の例

米国・インド・インドネシア・オーストラリア・韓国・サウジアラビア・スウェーデン・タイ・中国・ドイツ・フィリピン・フランス・マレーシア・メキシコ

オランダからのインターン生、今年も大活躍！

昨年に続き、今年もオランダからの留学生1名がインターン生として海外事業部に参加しました。2024年6月に行われたタイの展示会出展に向けて、市場分析、オリジナル製品の販促ツール作成・当日運営まで全般に携わり、現地での販路拡大に向けて大活躍してくれました。





地球環境の未来を守り続けるために。

いまや気候変動への対応は、すべての企業が取り組むべき課題。それは小さな工場でも例外ではありません。地球の資源を使い、ものづくりをする私たちが、地球環境の未来のためにできることを考え、実践していきます。

製造プロセスを通じた取り組み

ヒーターの製造・販売という私たちの事業が、環境に与える負荷。それらをできるだけ抑えるためにできることを考え、取り組んでいます。

温室効果ガス排出削減

スリーハイは、「環境への配慮」を経営の重要なテーマとし、環境パフォーマンスの向上に取り組んでいます。具体的には、自社のみならず仕入先も含めて温室効果ガス排出量の算出・開示を行い、サプライチェーン全体での環境負荷低減を目指しています。また、お客さまの現場での環境負荷を軽減する製品の開発や提案にも力を入れています。さらに、2024年9月には、全工場の電力を再生可能エネルギーに切り替えることで、以後のCO_2排出量をゼロにする目標を達成しました。

	2021年	2022年	2023年	2024年
再エネ利用率	0%	99%	96%	96 %
CO_2 排出量	21,717 kg	185 kg	766 kg	768 kg
前年比	+15%	-99%	+314%	+0.26 %

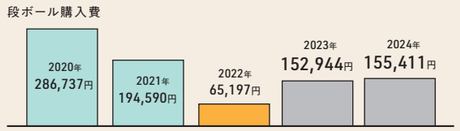
廃棄物削減

横浜トリエンナーレに廃材を提供

3年に1度横浜で開催される日本を代表する現代アートの国際展「横浜トリエンナーレ」(2024年3月~6月開催)に協力し、製品の製造過程で出る端材を提供しました。この端材は、来場者が使用するペン立てとして再利用されています。

段ボールの再利用

2019年から、原材料や資材を受け取る段ボール箱を当社製品の納入に再利用しています。2024年も受注増加による在庫不足で買い足したため、前年比は増額しました。



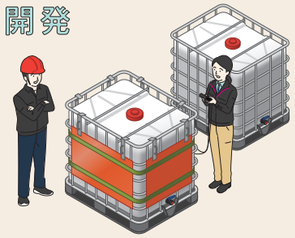
ISO運用強化

スリーハイはISO9001とISO14001を取得しています。ISOの運用を通じて、品質向上と環境負荷低減の取り組みを強化するため、2024年も内部監査員を3人追加。週に1度、全従業員でマネジメントマニュアルの読み合わせをし、周知徹底を図りました。

製品開発・提案を通じた取り組み

環境負荷を軽減する新型IBC用ヒーターを開発

原材料や薬品などの貯蔵のほか、船舶で海外から輸入する際の容器として使われるコンテナ容器「IBC」。容器内の中身の固化や品質の低下を防ぐために、輸送前後にIBCを温めておく必要があります。輸送前後の保温には、大型保温庫やIBC用ヒーターを使うのが一般的です。



これまでの課題

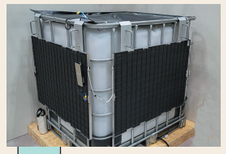
・使用中に断線しやすいが、断線時に部品交換ができず、製品をまるごと買い替える必要があった。
・輸送前後の保温に大型保温庫を使用するため、多くの電気を必要とした。

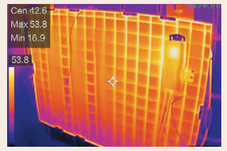
そこで私たちは

従来品の問題を解決するIBC用ヒーターを開発

スリーハイのIBC用ヒーターの特長

・故障した部分のみを交換可能なため、メンテナンスコストの削減が可能。
・断燃材による保温力の向上と電気使用量の抑制が可能。





エネルギー消費量削減 **廃棄物削減**

が見込めます。

中小企業のこれからにとって、SDGsは必須のテーマ。

全世界が協力して2030年の達成を目指す「持続可能な開発目標（SDGs）」は、経済・社会の一員である当社にとっても重要な課題です。企業間でSDGsへの意識が高まるにつれて、今後もサプライチェーンの一部であり続けるために。また、人々の社会・環境に対する価値観が変化する中で、次世代に選ばれ続けるために。今後ますます重要なテーマになると捉えています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

これまでの取り組み

2020年	「かながわSDGsパートナー」登録
2020年	神奈川県「SDGs経営に向けた中小企業伴走型支援事業」採択
2021年	横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs（上位Superior）」に認定
2023年	「OMOU2022」発刊、SDGs進捗モニタリングを開始
2024年	かながわSDGsパートナー（毎月ミーティング・10月）にて取組紹介

当社のSDGs達成貢献に向けた取り組み

ステークホルダー（関係者）	アクティビティ（活動）	ゴール（目指す状態）	指標	進捗モニタリング 目標（2030年）	2023年	2024年	評価	コメント	貢献するSDGs（ゴール／ターゲット）
パートナー企業	徹底したお客さま目線での課題発見と独自提案	顧客に支持され続けている	「熱」の問題解決量 - 売上高 - 出荷数	8億円 80,000台	4.4億円 33,452台	4.6億円 34,813台	△	売上は微増。売上目標に届かず。	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 9.1
			（担当者の対応に関する）顧客満足度	否定的な回答を限りなくゼロに近づける	ー	肯定的な声がほとんどだったが、一部に対応不備などに不満の声あり	△	今年より顧客の満足度調査を開始。今後は定量調査も行う予定。	
	国際基準に適合した品質・環境マネジメント	品質・環境マネジメントが継続的に改善されている	ISO9001及びISO14001の認証維持	維持している	維持している	維持している	○	維持していることで顧客から高い信頼を得ている。	12 つくる責任 つかう責任 12.4
地域	地域課題の解決拠点としての工場カフェ「DEN」の活用	「DEN」が地域の人のチャレンジの場として活用され続けている	地域による「DEN」の活用状況	地域の人たちに活用され続けている	「東山田食堂」や「プログラミング講座」の発展的継続	昨年の継続に加え、ハロウィンイベントの開催	○	地域イベントでの利用が増えてきている。	11 住み続けられるまちづくりを
	次世代を担う若者向けの取り組み	次世代の若者たちに価値が届けられている	地域からのプログラム等の依頼状況	地域から求められ続けている	まち探検:2回 小学校 :1校 中学校 :6校 高校 :5校 大学 :2校	まち探検:1回 小学校 :2校 中学校 :4校 高校 :2校 大学 :4校	○	校外学習の機会、学生と社会との接点づくりを今後も継続していく。	4 質の高い教育をみんなに 4.4
従業員	女性も活躍できる環境整備	女性が意思決定の場に参画している	全従業員の女性比率 ※今後、指標の追加を検討。	50%程度	74%	68%	○	女性に限らず誰もが活躍できる職場環境を維持できるよう日々見直していく。	5 ジェンダー平等を実現しよう 5.5
	働きやすい職場環境づくり	従業員が生き生きと働いている	有給休暇取得率	全国平均※ +10% ※62.1%（厚生労働省「令和5年就労条件総合調査」）	77%	68%	△	今後も取得しやすい社風づくりを維持していく。	8 働きがいも経済成長も

循　環

インプット

財務資本

財務基盤の安定化
（実質無借金経営）

製造資本

製造拠点の拡大
（札幌営業所の開設）

知的資本

あらゆる「熱の困りごと」
への提案・解決ノウハウ
（販売先数652社）

人的資本

「温める」をつくり続ける従業員
（44人）

社会・関係資本

すべての関係者との協力関係
（ステークホルダー経営の実践）

自然資本

電気、資材
（CO_2排出量768kg）

外部　環境

- 日本の“ものづくり力”の低下（技術流出、産業空洞化）
- 予測困難で変化の激しい時代
- 情報公開・透明性が重視される社会

リスク

- 仕入れのリスク（価格高騰、材料不足）
- 人材のリスク（中小企業の人手不足）
- 市場のリスク（国内市場の縮小、飽和）

戦略

- グローバルニッチトップ企業
- 二次加工からの脱却
- 情報発信の強化
- DX 化、発信強化を支える人材確保

事業活動

お客さまのあらゆる「熱の困りごと」への提案

アウトプット

- 産業用ヒーターの製造・販売
- ヒーターに限らない解決策の開発・提供

ステークホルダーのアウトカム

- 世界中のお客さまの「熱の困りごと」解決
- 従業員一人ひとりの成長促進
- 仕入先とのパートナーシップの強化
- 地域コミュニティとの連携強化

組　織

「予測困難な時代」を生き抜く、柔軟でしなやかな組織

経営理念（ミッション）
ものを想う。
ひとを想う。

ビジョン
世界中の「温めたい」に応えていく。

バリュー
「温める」をつくること。

社会へのアウトカム

日本の“ものづくり力”の再興
（高付加価値化）

付加価値の高い“ものづくり”を担う人材育成

次世代へのものづくりの継承

環境負荷の低いヒーターの開発や使用提案

準工業地域の新たなモデル構築

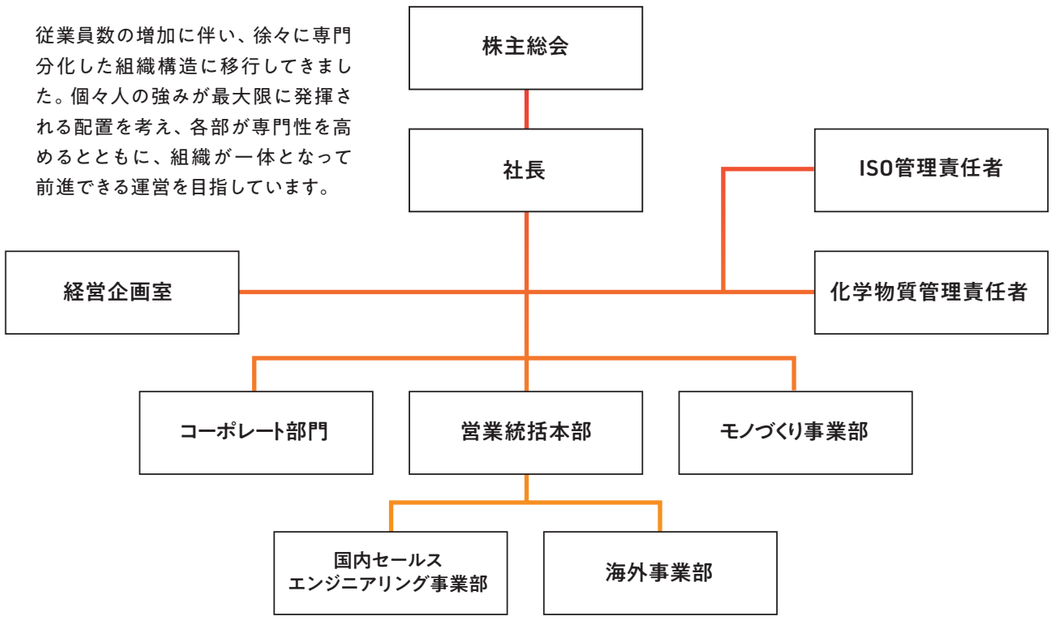
参考ガイドライン：「国際統合報告<IR>フレームワーク」を参考にしています。

会社概要

商号	株式会社スリーハイ
創業	1987年3月21日
設立	1990年5月24日
資本金	3000万円
代表取締役	男澤 誠
事業内容	産業用・工業用ヒーター、温度コントローラ、温度センサーの製造・販売及び それらのアフターメンテナンス
取引銀行	三井住友銀行 溝ノ口支店　りそな銀行 横浜支店　横浜銀行 たまプラーザ支店 きらぼし銀行 中山支店　横浜信用金庫 高田支店　川崎信用金庫 有馬支店
所在地	（本社、第2工場、第3工場、札幌営業所） 本　　社：〒224-0023 神奈川県横浜市都筑区東山田 4-42-16 TEL:045-590-5561　FAX:045-590-5571 札幌営業所：〒060-0004 北海道札幌市中央区北4条西4-1-7 TEL:011-804-8644　FAX:011-351-2678
従業員数	44人（2024年12月末時点）

組織体制

従業員数の増加に伴い、徐々に専門分化した組織構造に移行してきました。個々人の強みが最大限に発揮される配置を考え、各部が専門性を高めるとともに、組織が一体となって前進できる運営を目指しています。



沿革

1987年	創業者（先代）が個人事業主として川崎市で創業 ヒーターの製造販売開始
1990年	神奈川県川崎市に株式会社スリーハイ・本社を設立
1997年	・ペール缶、一斗缶ヒーター「K-11」を発表　・ドラム缶ヒーター「K-21」を発表　・ドラム缶ヒーター「K-22」を発表 ・4.6リットル缶ヒーター「K-31」を発表　・デジタル温度コントローラ「THC-15」を発表
2003年	・ボンベヒーターを発表　・ペール缶、一斗缶ヒーター「K-11W」を発表　・ドラム缶ヒーター「K-21W」を発表 ・ドラム缶ヒーター「K-22W」を発表　・ミニ缶ヒーター「K-31W」を発表
2004年	本社を現在地（横浜市都筑区東山田）に移転
2005年	ISO14001取得
2007年	ISO9001取得
2009年	代表取締役に男澤誠が就任
2010年	・温度コントローラ「monoOne-100/100T」を発表　・「横浜型地域貢献企業」に認定
2011年	・「神奈川県優良工場表彰」を受賞　・温度コントローラ「monoOne-200」を発表　・「横浜知財みらい企業」に認定
2012年	・セメンティングスポットヒーター「MASANORI」を発表　・PSE対応型ドラム缶ヒーター「K-21W-PSE」を発表 ・PSE対応型ペール缶、一斗缶ヒーター「K-11W-PSE」を発表　・温度コントローラ「monoOne-120/120T」を発表
2013年	温度コントローラ「monoOne+（モノワンプラス）」を発表
2014年	・「かながわ中小企業モデル工場」に認定　・「第8回かながわ子ども・子育て支援大賞特別賞」を受賞
2017年	・業務拡大につき第2工場 カフェ&ファクトリーDENをオープン ・「かながわ中小企業モデル工場」に認定　・「神奈川がんばる企業エース2017」に認定 ・一斗缶、ペール缶用底面ヒーター「GOEMON-100」を発表
2018年	「横浜型地域貢献企業プレミアム企業」に認定
2020年	・「かながわSDGsパートナー」に認定　・「第3回地域産業おこし大賞奨励賞」を受賞 ・内閣府特命担当大臣表彰「子供と家族・若者応援団表彰（子供・若者育成支援部門）」を受賞 ・温度コントローラ「monoOne+B」「monoOne+W」を発表　・「WANIヒーター」を発表　・「ヌカ玉バスター」を発表
2021年	・横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs（上位Superior）」に認定　・自社ECサイトオープン
2022年	・資本金を2000万円に増資 ・「健康経営優良法人2022（中小規模法人部門）」に認定　・「神奈川がんばる企業エース2022」に認定
2023年	・資本金を3000万円に増資 ・「健康経営優良法人2023（中小規模法人部門）」に認定　・「横浜健康経営認証2023（クラスAA）」に認定
2024年	・北海道・札幌に札幌営業所を設立 ・「IBC用ヒーター」を発表 ・「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞 審査委員会特別賞を受賞 ・「健康経営優良法人2024（中小規模法人部門）」に認定 ・横浜市「脱炭素取組宣言」に登録

2024年9月30日現在

<資産の部>		<負債の部>	
科　目	金　額	科　目	金　額
	円		円
【流動資産】	367,525,888	【流動負債】	91,667,846
現金及び預金	260,656,931	買掛金	12,644,769
受取手形	12,583,142	短期借入金	50,000,000
売掛金	55,319,567	未払金	1,183,635
貸倒引当金	△ 526,190	未払費用	12,823,711
材料	38,209,806	預り金	2,676,231
仕掛品	327,410	未払消費税等	7,855,000
前払金	538,800	未払法人税等	4,484,500
立替金	416,422	【固定負債】	146,704,000
【固定資産】	34,037,506	長期借入金	146,704,000
有形固定資産	7,989,812		
建物	1,595,748	負債の部 合計	238,371,846
建物附属設備	2,491,164		
機械装置	2,912,238	<純資産の部>	
工具器具備品	990,662	科　目	金　額
無形固定資産	7,631,077		円
電話加入権	74,984	【株主資本】	163,191,548
ソフトウェア	7,556,093	資本金	30,000,000
投資その他の資産	18,416,617	利益剰余金	133,191,548
出資金	2,020,000	利益準備金	2,500,000
長期前払費用	2,132,247	その他利益剰余金	130,691,548
敷金	1,290,000	繰越利益剰余金	130,691,548
差入保証金	54,200		
前払保険料	1,433,655		
積立保険金	11,486,515	純資産の部 合計	163,191,548
資産の部 合計	401,563,394	負債・純資産の部 合計	401,563,394

全社で築いた、財務基盤の安定

前期（2023年9月期）は、経営者保証が解除されたことで、財務の自由度が大きく向上しました。長期借入金は残存しながらも、現預金の増加によって高い流動性を確保しました。この成果は、社員一人ひとりが毎月公開される月次試算表を活用し、利益改善に取り組んだことに加え、本アニュアルレポートを通じた情報開示を進めてきた結果だと捉えています。会社の透明性を高めることが、金融機関からの事業性評価の向上や信頼の獲得につながりました。また、利益剰余金の積み増しによって　、さらなる挑戦への準備を整えることもできました。社員が数字を基に行動する文化が根付き、具体的な改善結果を生み出す努力を重ねてきたことで、さらなる経営基盤の安定化を実現できたことに深く感謝しています。今後も、透明性とチーム力を大切に、全従業員とともに持続可能な成長を目指してまいります。

株式会社スリーハイ 代表取締役 男澤 誠

有識者コメント

安全性の向上と、高まる成長期待

当期の財務情報からは、スリーハイが自ら掲げたビジョンの実現に向けて、着実に歩みを進めていることが見てとれます。3ページにあるように売り上げが順調に伸びていることに加え、社員の利益改善への取り組みが寄与したことで、繰越利益剰余金の増加が継続しました。会社全体の財務状況に関しても、スリーハイと持株会社の事業の切り分けにより、資産規模は若干縮小しましたが、適切な流動性の確保に加え、純資産の部が全体に占める比率も上昇し、安全性も高まりました。こうした整理は、スリーハイが手がける事業の収益性をより的確に理解するのにも役立つでしょう。昨年目標として掲げた「実質無借金経営」も達成されました。このような努力の結果、財務的には、今後の事業成長のための準備が整ったと言えるでしょう。

PROFILE

依田真美

相模女子大学大学院 社会起業研究科及び英語文化コミュニケーション学科 特任教授
株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ 取締役（社外）
株式会社横浜銀行 取締役（非業務執行）
外資系金融機関で日本の産業・企業分析を担当後、スタンダード&プアーズにて事業会社・公的部門格付部部長、証券化本部長などを歴任。その後、地域活性化に携わるため北海道大学大学院に進学。日本証券アナリスト協会認定アナリスト。MITスローン経営大学院修了、修士（経営学）。北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院修了、博士（観光学）。

2024年に認定 「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞 審査委員会特別賞

本賞は「従業員とその家族」「外注先・仕入先」「顧客」「地域社会」「株主」という5つの「ひと」を幸せにする経営を実践し業績を上げている企業を表彰する制度です。
「ひとを幸せにすれば結果的に業績も上がる。そんな大切な会社を1社でも増やしたい」という想いから「人を大切にする経営学会」によって2010年に創設されました。スリーハイは、第14回受賞企業30団体のうち、神奈川県では唯一の受賞。特に書類審査（財務評価及び経営評価）となる1次審査の点数が高い（86点）ことのほか、障がい者雇用への積極的な取り組み、産業用ヒーターというニッチ市場を捉えているビジネスモデルを評価いただきました。

2024年に認定 横浜市「脱炭素取組宣言」登録

身近な省エネ活動を含む脱炭素化に取り組むことを宣言する横浜市の「脱炭素取組宣言制度」にスリーハイは賛同しています。

継続 健康経営優良法人2024（中小規模法人部門）

継続 横浜型地域貢献企業（最上位認定）

継続 かながわ治療と仕事の両立推進企業

継続 横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs（上位 Superior）」

継続 横浜知財みらい企業

継続 かながわSDGsパートナー

継続 かながわ中小企業モデル工場

リスクマネジメント

スリーハイでは、事業の中長期的な継続を目指し、想定されるリスクへの対策を立て、損益の回避または低減を図る取り組みを行っています。

主な取り組み

- セカンドサプライヤーの選定
- BCP マニュアルの作成・啓発
- BCP 検討委員会の定期開催
- 緊急時対応マニュアルを全従業員に配布
- 緊急避難訓練の実施
- AED の導入
- サイバーテロ講習の実施
- 法令勉強会の開催（PL 法）

緊急避難訓練の実施

法令勉強会の開催（PL 法）

『OMOU2024』は、2024年のスローガン「ステークホルダーをどこまでも温めていこう」に則り、現場の取り組みや活動成果をステークホルダーにわかりやすく伝えたいという思いが込められたレポートとなっています。4年目を迎えるアニュアルレポートを拝読し、その思いが全体に貫かれており、ステークホルダーとの対話がさらに深まっていることが感じられ、その進化に敬意を表します。

寺本明輝
リエゾンアシストラボ代表
神奈川大学非常勤講師
中小企業診断士

[今回の取り組みで高く評価できる点]

- 特に注目すべきは、価値創造プロセスにおいて、社会へのアウトカムを強調している点です。事業活動の成果が社会に与える影響を明確にすることで、事業の成長が社会貢献と結びつき、持続可能な成長を実現していこうという意図と道筋が、より一層明瞭になっています。
- 実際の事業活動においても、当社の成長ベクトルに基づいた「札幌営業所開設による市場拡大」や「IBC 用ヒータの新製品開発」、経営体制強化に向けた「持株会社体制への移行」など、新たな試みが展開されています。それらの成果として、昨年に引き続き「過去最高の売上高」を更新し、企業価値が確実に向上していることが評価できます。

[取り組みの進捗を評価しつつ、今後にさらに期待したい点]

- 冒頭の代表挨拶で「今後、毎年 6% 程度の売上成長を目指す」と言及されています。一方で、SDGs 達成に向けた取り組みでは、2030 年の売上目標 8 億円を設定しているため、その整合性を確認する必要があります。
- 戦略には計画性と柔軟性が求められます。その観点から、他の目標項目においても、経営環境の変化や組織能力の状況を分析し、改めて長期・中期の目標および KPI を検討することをお勧めします。これにより、企業価値向上とサステナビリティ戦略を一体化させた経営を、より着実に実現していただけることを期待しています。

スリーハイの「ものを想う。ひとを想う。」という活動成果を毎年拝見させていただき、来年のアニュアルレポートの発刊を早くも楽しみにしています。

本報告書は、スリーハイがはじめてレポートを作成し発行してから4作目であり、2024年2月8日に持株会社スリーハイホールディングスを設置してはじめての報告書である。
「ものを想う。ひとを想う」というミッションにもとづき、「温める」という要素をもつビジョンとバリューを実現するために、「熱の困りごと」を解決し、関係するステークホルダーとの関係性を強化していくことで価値創造に取り組んできたスリーハイの企業活動の本気度がわかるレポートとなっている。
変化する事業環境に対応するためDXとGXに注力し、具体的な施策を実施していることに価値創造に積極的に取り組むスリーハイの起業家精神を感じる。DXでは、人手不足に対応するため、AIを活用した事務業務のDX化を推進している。そして、GXでは、脱炭素経営に取り組み、全工場の電力を再生可能エネルギーとしCO_2排出量ゼロ目標を達成している。今後は、Scope3測定によるサプライチェーン全体でのCO_2排出量削減を目指すとのことであるので期待したい。また、「SDGs達成貢献に向けた取り組み」の目標に、未達成でありながらも新しく従業員の有給休暇取得率（全国平均+10%）を入れていることに「ひと」を大事にする企業姿勢を感じる。
2023年度のコメントで指摘したが、企業として、売上増加にともない販路を拡大し、組織としても変化する時期である。2024年度は札幌営業所の開設、海外展開の強化、他社との連携のように事業競争力獲得のための経営体制強化にあわせて持株会社体制に移行した。この新体制への移行は、さらなる価値創造に向けた企業としてのスリーハイの新たな礎となるであろう。
本レポートからわかるように、スリーハイは、経営理念が明確であり、それが組織に浸透していることが企業の強みとなっている。ホールディングカンパニー設置によるグループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化と事業承継におけるメリットを活かしながら、スリーハイ単体としての経営理念の組織への浸透をいかにしていくのかが今後の課題となるだろう。グループ経営体制により海外展開と事業多角化を目指しさらなる企業価値の創造へと展開し飛躍するスリーハイのはじまりを記録するという意味を持つ企業としてのスリーハイの節目となるレポートである。

鶴田佳史
大東文化大学
社会学部社会学科教授